

【事例】多品種少量の精密部品の製造業者

(様式第 69 号)

令和 年 月 日

株式会社日本政策金融公庫 御中

住 所

商号又は名称

代 表 者 名

ゴム印又は代表者の自署

D X 推進指標活用計画書

1 D X 推進指標の自己診断結果を踏まえた自社の課題

当社は、取引先からの要請により顧客情報管理体制は整備しているため、プライバシー・データセキュリティは全体平均を超える水準だが、その他項目は「未着手」ないし「一部での散発的実施」の状況であり、課題が多い。とりわけ、同業者と比べてビジョンや経営トップのコミットメントが不十分であったため、まずは経営者含めて経営幹部で I T 戦略の会議を定期的を開催し、自社の D X の推進状況を管理することとした。

また、I T システムの観点では、データ活用の面で課題が浮き彫りになった。当社は、平均ロット 10 個以下という少量生産を行っており、加工機械も 50 台超保有していることから、データ活用を通じた見積もりの精度向上や生産管理改善は今後ますます重要になってくると認識している。

2 今後の対応策（事業計画の概要）（注）

当社の少量生産体制を支える上で、これまではベテランの職員の勘に頼っていた部分が大きかったが、上記 1 の課題認識を踏まえ、これからは原価管理・生産管理のシステムを導入し、従業員や生産設備の能力を可視化し、工程ごとの作業時間・コストを営業担当者・製造現場が共有できるシステムを導入する。これにより、顧客から注文が入った際にすぐに納期・見積りを出すことができるとともに、工場の稼働状況等から最適な生産計画を作ることができる。

さらに、このシステムによって蓄積されたデータを次回以降の受注に活かし、見積もりの精度を向上することで、収益向上につなげていく。

（注）独立行政法人情報処理推進機構から提供された D X 推進指標にかかるベンチマークを出力し、本計画書に添付してご提出ください。

3 前 2 を実施するための必要資金

設 備 資 金 等		資 金 調 達	
システム導入費	1 0 0 , 0 0 0 千円	公庫	5 0 , 0 0 0 千円
	千円	民間金融機関	5 0 , 0 0 0 千円
	千円	自己資金	千円
合 計	1 0 0 , 0 0 0 千円	合 計	1 0 0 , 0 0 0 千円

(令和 4 年 4 月)